

市立博物館未来の森ミュージアム 令和元年度冬季特別展覧会

お姫さまの 婚礼道具

2月7日(金)～3月22日(日)

旧八代城主
松井家に伝来する
華麗なる婚礼道具を
一挙公開

江戸時代、大名家など上級武家の姫君がお嫁入りするとき、その家格にふさわしい婚礼道具が調えられました。婚礼の儀式に不可欠な貝桶をはじめ、化粧道具や文房具、香道具など、姫君の生活に必要なさまざまな品がそろえられ、大名家ともなると金銀蒔絵をほどこしたものが準備されました。旧八代城主松井家には、多くの婚礼道具が伝来しています。いずれも蒔絵をほどこした豪華なもので、松井家の家格の高さやうかがうことができます。今回の展覧会では、松井家伝来の婚礼道具に夫人たちゆかりの品々を加えた85点を展示します。



かいおけ あわせがい
貝桶・合貝
江戸時代後期(19世紀)
松井文庫所蔵

貝桶は貝合せの貝を入れる容器です。貝合せは、対となる貝を探し出す遊びで、裏面に絵柄をほどこした蛤の貝殻が用いられました。貝合せに用いる蛤は、一つの貝以外、決して合わないことから、夫婦和合の象徴とされ、婚礼道具の筆頭として扱われました。



じゅうに てばこ
十二手箱

江戸時代後期(19世紀) 松井文庫所蔵
12の小型の箱が納められていることからその名があります。本品には、鏡箱(大円形)2合、油入(小円形)2合、櫛箱(方形)4合、白粉箱(方形)4合が納められています。



こきんびな
古今雛

江戸時代後期 天保10年(1839) 松井文庫所蔵
古今雛は、明和年間(1764～72)の頃、江戸の人形師原舟月が考案した豪華なつくりの雛人形です。江戸で流行したのち、京や大坂に広がりました。本品は、松井家10代重之が、八代ではじめて桃の節句を迎える新妻琴のために京都で購入したものです。

特別
講演会

「婚礼に見る武家文化の諸相
—細川家・松井家の場合—」

とき 2月22日(土) 午後2時～3時30分
ところ 博物館 (聴講無料)
講師 山崎 摂氏 (文化振興課課長補佐)
定員 80人 (事前申込不要)

※開館時間、観覧料などの
詳細はP16を確認ください。

問合せ 博物館 ☎34-5555